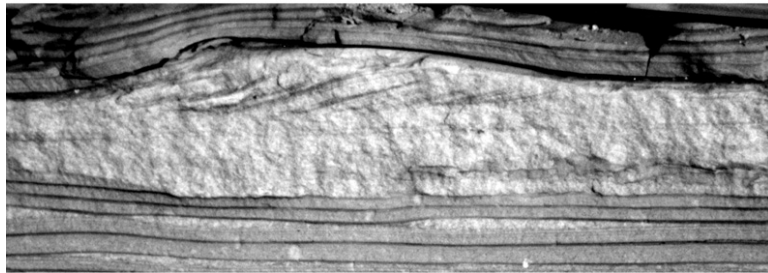




大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

# 地球学教室ニュー・スレタ - No. 8



Newsletter No. 8 (2000), Department of Geosciences  
Graduate School of Science, Osaka City University

< 目 次 >

1999年度地球学教室	… 1	2-4. 1999年度教員の兼職	… 5
1. 地球学教室の構成および研究内容	… 1	3. 地球学教室の研究活動	… 5
1-1. 教室の構成	… 1	3-1. 1999年研究業績	… 5
1-2. 構成員の研究内容	… 1	3-2. 1999年度海外研究	… 13
1-3. 2000年度学生・院生構成数	… 3	3-3. 1999年度研究補助金等	… 14
2. 地球学教室の教育活動	… 3	4. 地球学教室関係行事・出版物等	… 14
2-1. 学部・大学院教育	… 3	4-1. 1999年度各種行事	… 14
2-2. 2000年度カリキュラム・集中講義等	… 3	4-2. 出版物	… 15
2-3. 1999年度卒業論文・修士論文・博士論文	… 4	4-3. その他	… 15

## 1999 年度地球学教室

教室主任 八尾 昭

今年(2000年)の3月23日の1999年度卒業式・修了式では、理学部地球学科から21名の理学士と、理学研究科前期博士課程生物地球系専攻地球学分野から10名の修士(理学)が巣立ちました。また、1999年度には地球学分野から4名が課程博士(地質学専攻)、2名が論文博士(生物地球系専攻)として学位(理学)を授与されました。1999年度は、地球学科が発足して7年目にあたります。私は、7年前の1993年度の教室主任を務めました。あれから一巡して、1999年度に2回目の教室主任を担当しました。この7年の間に、地球学教室の教育・研究体制に大きな変更と前進がありました。学部関係では、1995年度から3年次社会人編入学学生の受け入れ、1998年度からの推薦入学学生の受け入れ、さらに1999年度から3年次一般編入学学生の受け入れが始まりました。このように学生の受入の多様化が急激に進んでいます。大学院では、1998年に生物地球系専攻が発足し、地球学分野では6つの小講座体制から、2つの大講座(環境地球学講座、地球物質進化学講座)体制へと変わりました。この新しい大学院体制のもとでの最初の修士と博士が1999年度に誕生しました。

1999年度の地球学教室は、教員16名、研究員3名(日本学術振興会特別研究員2名、同外国人長期招へい研究員1名)、研究生4名、大学院後期博士課程院生22名(うち社会人枠5名、外国人留学生7名)、前期博士課程院生25名(うち外国人留学生1名)、学生74名、合計144名で構成されました。学部4回生は21名が卒業して、そのうち9名が大学院前期博士課程(うち2名は他大学大学院)に進学しました。前期博士課程2回生は10名が修了して、そのうち6名が後期博士課程に進学しました。今年度(2000)は、前期博士課程に他大学から4名、外国人留学生2名が入学し、後期博士課程には社会人枠に4名、外国人留学生3名が入学しました。このように大学院生の構成も多様化が進んでいます。

1999年度の地球学教室の教員・大学院生らによる研究活動は、例年にもまして活発になっています。理学部地球学英文紀要 *Journal of Geosciences, Osaka City University*, vol. 43 (March, 2000) は14編の論文を掲載しており、総260ページという例年以上の分厚い冊子となりました。地球学談話会は例年通り2ヶ月に1回のペースで開催され、海外を含めて学外の研究者の話題提供が半数を占めました。地球学教室教員が中心となって申請した大阪市立大学国際シンポジウム「ロディニア、 Gondwana 超大陸の形成・分裂とアジア大陸の成長」(2001年10月開催予定)が内定の裁定を受けました。

以上のように、地球学教室の教育・研究活動は順調に進んでいると言えます。今後、21世紀の地球学をリードすべく、よりよい教育・研究を模索し、また社会に対する責務を果たすべく着実に活動を進めます。

### 1. 地球学教室の構成および研究内容

#### 1-1. 教室の構成

地球学教室は「地球物質進化学講座」と「環境地球学講座」から構成されています。地球物質進化学講座は「地球物質学 分野」、「地球物質学 分野」、「地球史学 分野」から、環境地球学講座は「人類紀自然学 分野」、「都市地盤構造学 分野」、「地球情報学 分野」からなります。地球学教室の教員定数は16名で、現在数は16名です。大学院理学研究科生物地球系専攻の院生のうち、地球学教室所属の前期博士課程院生定数は24名(M1; 12名, M2; 12名)で、現在数26名、後期博士課程院生定数は18名(D1; 6名, D2; 6名, D3; 6名)で、現在数29名です。

#### 1-2. 構成員の研究内容

本年度の各研究分野の構成員および研究課題。

##### [ 地球物質進化学講座 ]

地球物質学 分野 (Mineralogy, Petrology & Geochemistry I)

地球科学現象の物理・化学過程の解明を目的として、地球物質の結晶構造・化学組成・マイクロ～マクロな組織の変化と規則性を原子・鉱物レベルで研究する。

相川信之 [ 教授 ] 鉱物の微細構造、微細組織の形成過程。

益田晴恵 [ 助教授 ] プレート収束域の物質循環。

篠田圭司 [ 講師 ] 鉱物の高圧下での赤外分光学的研究。

新見尚之 [ D3 ] 変成岩構成鉱物中の水関連化学種の地質学的意義。

三好直哉 [ D3 ] 天然石英中の OH 欠陥について。

松崎琢也 [ D2 ] 火砕流堆積物中のクリストパライトの格

子定数について。

中川聖子 [ M2 ] 南海トラフの Site808 における火山ガラスの続成作用による変質とその化学組成。

伊藤浩子 [ M2 ] 大阪北摂地域における岩石・土壌中のヒ素の化学形態と地下水中之への溶出過程。

地球物質学 分野 (Mineralogy, Petrology & Geochemistry II)

同位体元素から超大陸やマントルまで、現在から地球誕生の46億年前までの広い時間・空間を研究対象として、地球物質の構成や変化とそれらの規則性を岩体・岩石レベルで研究する。

吉田 勝 [ 教授 ] 原生代 Gondwana ランドの構造と岩石。

古山勝彦 [ 助教授 ] 新生代の火山地質及び岩石学。

奥平敬元 [ 講師 ] 変成作用の素過程と下部地殻進化。

Rajesh, H. M. [ 学振特別研究員 ] 南インドグラニュライト帯のアルカリ貫入岩類の岩石とテクトニクス。Alkaline magmatism in southwestern India: implications for East Gondwana reconstructions.

Biju, S. [ D2 ] 北西インドアラヴァリ-デリー帯の花崗岩類 - 岩石学的特徴と造構史における意義 - Granitic masses of the Aravalli-Delhi Fold Belt: Their Petrographic Characterization and Tectonogenesis.

佐藤隆春 [ D1 ] 近畿地方の中新生火成活動の変遷。

井門令子 [ M2 ] 角閃石マイロナイトにおける化学反応。

西脇 仁 [ M1 ] 領家変成帯における塩基性岩の定置機構。

Kokonyangi Joseph [ M1 ] コンゴ、キバラン地域の地質学・岩石学。The Kibaran type region in Mitwaba district - structural geology, geochemistry, geochronology and integration to Rodinia Supercontinent.

地球史学 分野 (Earth History)

地球表層部の地層や化石に残されている記録を手掛かりにして、地球の歴史をひもとく、地球の誕生から現在・未来への地球環

境の変遷史を解明する。  
八尾昭 [ 教授 ] 中・古生代地球史：放散虫類の古生物学。  
前島涉 [ 助教授 ] 碎屑物質の堆積作用：堆積盆解析。  
江崎洋一 [ 講師 ] 地球環境変遷史：化石刺胞動物の系統発生。  
桑原希世子 [ 研究生 ] ペルム紀放散虫化石の古生物学：古生代-中生代境界の環境変動。  
柏木健司 [ D2 ] ジュラ紀付加体の形成過程と付加体形成後の地帯構造改変 - 西南日本外帯の秩父帯における例 -。  
西原ちさと [ D1 ] 美濃帯のマンガンノジュール中のジュラ紀中世放散虫化石群集。  
林 美明子 [ D1 ] インド東部タルチール・ゴンドワナ堆積盆における堆積環境変遷  
土居寿子 [ M2 ] ペルム紀四射サンゴの増殖様式。  
足立奈津子 [ M2 ] 下部デボン系福地層のマイクロブとマイクロバイライト。  
原田嘉彦 [ M2 ] 秋吉帯下部石炭系における生物礁の初期形成過程。  
安原有美 [ M2 ] 古生代四射サンゴの増殖様式。  
山中雅之 [ M1 ] ペルム紀放散虫による海洋環境の復元。  
[ 環境地球学構座 ]  
人類紀自然学分野 (Natural History of Anthropogene)  
地球上に人類が誕生して以降、現在までの最新の地質時代である人類紀(第四紀)に焦点をあて、その自然環境の変遷史、人間の活動と自然環境の相互作用、都市地盤の地質現象、短尺度の年代決定法の研究を行なう。  
熊井久雄 [ 教授 ] 第四紀層序学：水理地質学。  
吉川周作 [ 助教授 ] 第四紀自然環境学：火山灰層序学。  
三田村宗樹 [ 助教授 ] 第四紀地質学：都市地質学。  
小倉博之 [ 研究生 ] 火山ガラスを指標とした火山灰降灰層準と堆積物の攪乱に関する研究。  
内山 高 [ 研究生 ] ハヶ岳火山の形成・発達史、古地磁気層序学。  
釜中美歩 [ 研究生 ] 大阪平野長原遺跡の古土壌に関する研究。  
藤田正勝 [ D3 ] 東アジアの第四紀偶蹄類、特に日本と中国の第四紀イノシシ類とシカ類。  
福間 進 [ D3 ] 最終処分場と地質環境、府中市の地下水について。  
内山美恵子 [ D3 ] 大阪平野の水理地質学的研究。  
片岡香子 [ D3 ] 大規模噴火に伴う再堆積火山碎屑物に関する研究。  
Djadjang Jedi Setiadi [ D3 ] Stratigraphy and depositional processes of volcanoclastic rocks of Mount Guntur, West Java, Indonesia.  
本郷美佐緒 [ D2 ] 日本列島における中期更新世の花化石群集について。  
石井陽子 [ D2 ] 大阪周辺地域の完新世環境変化に関する研究。  
川村教一 [ D2 ] 四国讃岐平野の上部更新統・完新統の層序学的研究。  
Dicky Muslim [ D2 ] The behavior of rock formation system around Quaternary fault system.  
銭 祥富 [ D1 ] 大阪平野南部に分布する段丘層の層序と編年。  
井上 淳 [ D1 ] 堆積物中の微粒炭分析等による人間活動の変遷。  
吉村有加 [ D1 ] 縄文時代早前期人骨の四肢骨の形態。

塚本貴章 [ D1 ] 土壌の相違による土壌微生物活動について。  
松江実千代 [ D1 ] 近畿地方における完新世の植生変遷。  
加 三千宜 [ D1 ] 琵琶湖高島沖ボーリングコアを用いた珪藻分析による古環境変遷。  
Mao Limi [ D1 ] Human Impacts on Environmental Changes since the Last Milleniums in Southern Chinese Maritime provinces.  
Faizal Muhamadsyah [ M2 ] 3-D Geologic models using existing geological information.  
安原盛明 [ M2 ] 貝形虫化石群集に基づく完新世大阪湾の古環境復元及び現世貝形虫群集。  
富永好明 [ M2 ] 丹後半島の海成段丘の区分と編年。  
田中 優 [ M1 ] 堆積物からみる海水準変動について。  
鷲見浩司 [ M1 ] 岐阜県烏帽子岳火山山麓の鮮新統・更新統の層序学的研究。  
利涉幾多郎 [ M1 ] 小型哺乳動物相から復元される古環境。  
道端秀和 [ M1 ] 都市ダストに含まれる重金属に関する研究。  
Hendarmawan [ M1 ] Hydrogeological condition of Northern part of Bandung Basin.  
小林 岳 [ M1 ] 第四紀の斜面発達史に関する研究。  
中井聡子 [ M1 ] 四国・近畿の鮮新～更新世火山灰層序。  
都市地盤構造学分野 (Urban Geosciences)  
都市地盤の構造を材料科学的視点から研究し、地盤災害および地盤環境問題の究明や対策に必要な基礎データの蓄積と災害予測に関する研究を行なう。  
中川康一 [ 教授 ] 地盤の動力学：大阪堆積盆地の地下構造。  
根本泰雄 [ 助手 ] 応用地球物理学：西南日本の地殻構造と地震活動。  
宇田英雄 [ 技術員 ] コンピューター解析：都市地盤構造の可視化。  
Pathak Dinesh [ D2 ] 地下水探査に関する研究。  
柴山元彦 [ D2 ] 活断層の活動度調査。  
川村大作 [ D1 ] 地質の動力学。  
Mohamed Rashed [ D1 ] 反射法地震探査のデータ処理手法の開発。  
福住哲哉 [ M1 ] 反射法地震探査。  
中迎誠 [ M1 ] 地震の発震機構に関する研究。  
地球情報学分野 (Geoinformatics)  
情報科学的観点から地球に関する情報や知識を有機的に統合することにより、諸現象の関係性や法則性、地球情報の論理構造、地球環境の予測などを研究する。特に、野外調査データから地質構造を決定する作業に関連する基礎理論やコンピュータ処理法の開発、あるいはGISを用いた危険度予測(Hazard mapping)などが当面の研究課題である。  
塩野清治 [ 教授 ] 地質学的方法の情報科学的体系。  
升本真二 [ 助教授 ] 地球情報の定式化・表現方法。  
Venkatesh Raghavan [ 助教授：理学研究科兼任：学術情報総合センター - 所属 ] 空間情報データベース、GIS、リモートセンシング。  
米澤 剛 [ D2 ] 断層を含む地質構造のコンピュータ処理。  
Alaa Ahmed Masoud [ D1 ] リモートセンシングとGISを用いた環境地質学の研究  
阪本寛子 [ M2 ] 景観生態学の基礎研究。  
奥山裕樹 [ M2 ] ボーリングデータを用いた大阪市内の地下地質構造の推定。  
根本達也 [ M2 ] 新潟県小千谷地域の地すべりに関する研究。  
梶山敦司 [ M1 ] GISを用いた地すべりの土質力学解析。

### 1-3. 2000年度学生・院生構成数

2000年度の地球学科学生在籍数(3・4年は編入学学生数を含む)および理学研究科生物地球系専攻のうち地球学教室所属の院生数(社会人・外国人留学生数を含む)は表1のとおりです。

表1. 所属学生院生数(カッコ内は女子学生数)

学部	1年	2年	3年	4年	合計	
	16(7)	17(3)	22(6)	15(3)	70(19)	
大学院	M1	M2	D1	D2	D3	合計
	13(1)	13(7)	13(4)	9(2)	7(2)	55(16)

## 2. 地球学教室の教育活動

### 2-1. 学部・大学院教育

#### [ 学部 ]

本年度の地球学科入学生は16名(推薦入学2名を含む)です。また、一般編入学試験合格者3名と社会人編入学試験合格者2名が3回生に編入されました。地球学科では多様な学生募集(入学試験)を行なっています。平成13年度の募集は以下のとおりです。なお、募集の詳細については時期を追って理学部のホームページ等で案内します。

(<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp>)

- ・一般編入学：募集人員2名(学力試験7月14日)
- ・社会人編入学：募集人員3名(学力試験7月14日)
- ・推薦入学：募集人員2名(学力試験11月18日)
- ・一般選抜(前期日程)：募集人員9名(学力試験2月)
- ・一般選抜(後期日程)：募集人員3名(学力試験3月)

#### [ 大学院 ]

理学研究科の再編により大学院生の募集人員が増加しています。前期博士課程の試験が9月5~6日に、後期博士課程の試験が2月上旬に行なわれます。意欲的な学生の応募を待っています。なお、後期博士課程では研究意欲旺盛な社会人が在職しながら正規の大学院生として在学できる社会人特別選抜制度を継続しています。今年度も若干名を募集しますので、関係の研究室にお問い合わせ下さい。

### 2-2. 2000年度カリキュラム・集中講義等

地球学科教員が担当する科目を、全学共通科目(表2)、地球学科提供の専門科目(表3)および大学院生物地球系専攻の科目(表4)ごとに示します(\*は地球学科必修科目)。また、学部および大学院の集中講義はそれぞれ表5、表6のとおりです。

表2. 全学共通科目(担当のカッコ内は非常勤講師)

科目名	担当者	単位数
大阪の自然	三田村・(古谷)	2
大阪の自然[二部]	吉川・(古谷)	2
地球の科学	篠田・(領木)	2
循環の科学	益田他	2
実験で知る自然の世界	益田他	3
一般地球学A - *	塩野	2
一般地球学A - *	前島	2
一般地球学B -	八尾	2
一般地球学B -	古山	2
地球学実験A*	奥平他	2
地球学実験B*	熊井他	2
建設地学	塩野他	2
建設地学実習	古山他	1

表3. 学部専門教育科目(地球学科)

年次	科目名	担当者	単位数
1年	地球学概論 *	熊井	2
	地球学概論 *	吉田	2
	地形・地質投影法	前島	2
	地質調査法・同実習	奥平・全教員	3
	地球学野外実習	奥平・益田・全教員	1
2年	地球物質学	相川	2
	地球物質学 実習	篠田・相川	1
	岩石学	吉田	2
	岩石学 実習	奥平	1
	岩石学II	古山・奥平	2
	岩石学 実習	奥平・古山	1
	地球史学原論	八尾	2
	古生物科学	八尾・江崎	2
	古生物科学実習	江崎・八尾	2
	物理探査学概論	三田村	2
	地球情報基礎論	塩野	2
	地球情報基礎論実習	升本・塩野	1
	地球ダイナミクス	升本	2
	地質調査法	奥平他	2
	測量及び地質調査法 実習	奥平他	2
地球学野外実習	奥平・益田・全教員	1	
3年	地球学演習 *・*	主任・全教員	2
	地球物質学	相川・篠田	2
	地球物質学 実習	相川・篠田	1
	地球物質反応学	益田	2
	地球物質反応学 実習	益田	1
	地球物質反応学	相川・篠田	2
	テクトニクス	吉田・八尾	2
	堆積学	前島	2
	地球史学	江崎・八尾	2
	地球史学	熊井	2
	積成地質学	吉川	2
	積成地質学 実習	三田村	1
	積成地質学	吉川	2
	積成地質学 実習	前島	1
	地質力学	中川	2
	地質力学 実習	根本・中川	1
	地質力学	中川	2
	地質力学 実習	根本	1
	物理探査学概論	中川	2
	物理探査学概論 実習	根本	1
	地球ダイナミクス 実習	塩野	1
	地球ダイナミクス 実習	塩野	1
地球環境情報学	升本	2	
地球環境情報学実習	升本	1	
測量及び測地学	塩野	2	
地質調査法	奥平他	2	
測量及び地質調査法 実習	奥平他	2	
地球学野外実習III	奥平・益田・全教員	1	
4年	地球学演習 *	主任・全教員	1
	地球物質化学	相川・益田・篠田	2
	地球物質化学実習	益田・篠田	2
	変成地質学	奥平	2
	人類紀自然学	熊井	2
	都市地盤構造学	中川	2
	地球情報システム論	塩野	2
	情報基礎演習	升本・三田村	1
	情報基礎演習	升本・三田村	1
	特別研究*	全教員	10

~ は各特別研究コ - スの必修科目

地球物質学I; 地球物質学II; 人類紀自然学;  
都市地盤構造学; 地球環境情報学; 地球史学

表4. 大学院科目 (生物地球系専攻地球学分野)

課程	科目名	担当者	単位数
前期 博	地球物質 進化学分野	地球物質学特論	相川 2
		地球物質学特論	益田 2
		岩石学特論	吉田 2
		岩石学特論	古山 2
		地球進化学特論	八尾 2
		堆積論	前島 2
		地球物質進化学演習	各教員 8
	環境地球学 分野	人類紀自然学特論	熊井 2
		人類紀自然学特論	吉川 2
		都市地盤構造論	中川 2
		都市地盤環境論	三田村 2
		地球情報学特論	塩野 2
		地球情報学特論	ラガワン 2
	学際分野	環境地球学演習	各教員 8
地球情報学		升本 2	
後期 博	地球進化学	八尾 2	
	特別研究	前期特別研究 各教員 12	
	地球物質進化学ゼミナ-ル	各教員 2	
	環境地球学ゼミナ-ル	各教員 2	
	後期特別研究	各教員 8	

表5. 学部集中講義

科目名	担当者	単位数
地球学特論	中森 亨 (東北大学)	2
地球資源学特論	浦部徹郎 (地質調査所)	2
地球環境学特論	井内美郎 (愛媛大学)	2

表6. 大学院集中講義

科目名	担当者	単位数
環境地球学特別講義	諏訪 元 (東京大学)	2
地球物質進化学特別講義	小屋口剛博 (東京大学)	2
生物環境変動学特別講義	堀田 満 (鹿児島大学)	2

## 2-3. 1999 年度卒業論文・修士論文・博士論文

### [ 卒業論文 ]

岡橋久世：三重県鳥羽市相模，湿地堆積物中に見出された地震津波の痕跡。

木村義成：丘陵地を構成する地質と計量地形学的指標との関係 - 滋賀県阿山丘陵を例として - 。

中井聡子：八ヶ岳山麓に分布する八千穂層群の火山砕屑物層序。

中森忠幸：大阪湾の現生貝類群集の研究。

道端秀和：大阪湾堆積物から見た重金属汚染とその歴史。

利涉幾多郎：ノッチの形成史から復元される古水文史 - 長野県千曲川上流・北相木川のノッチと段丘を例に - 。

鷲見浩司：岐阜県九頭竜火山列烏帽子岳火山西麓の第三系 - 第四系。

遠藤敦志：神戸市長田区での PSM による地震動評価。

川添栄計：粘土の変形にともなう電位変化の特性。

小林 岳：大和川測線での反射法地震探査断面統合化の試み。

中迎 誠：大阪堆積盆地での震源メカニズム解に基づく応力分布。

大山大地：基本地質図学 CAI プログラム GMC の開発。

世木啓朗：デジタル標高データを基にした接峰面図の新しい作成方法 - 最適化原理による不等式標高データの活用 - 。

辻本好昭：複数の層序区分から生成されるプール束の構造。

## 大阪市立大学インターネット講座

### GRASS を用いた地理情報システム入門

1996 年度からはじめられた，市民を対象に大学の教室と同じレベルで講義を行なう講座です。その一つとして昨年度から理学部と学術情報総合センターとの共同で，「GRASS を用いた地理情報システム入門 (担当：升本眞二・Raghavan, V.)」が開講されています。内容は次のとおりです。

#### 1. 地理情報システム

1-1. GIS の機能

1-2. GIS の利点

1-3. GIS のハードウェア

1-4. GIS の基本的な処理

1-5. GIS のデータ

1-5-1. ラスター型データ

1-5-2. ベクトル型データ

1-5-3. ラスター型とベクトル型の比較

#### 2. 座標系

2-1. 回転楕円体

2-2. 投影法

2-3. UTM 図法

2-4. 座標系の設定

#### 3. GRASS

3-1. GRASS の利用レベル

3-2. データベースの構造

3-3. データファイル形式

3-3-1. ラスター型データ

3-3-2. ベクトル型データ

3-3-3. サイト型データ

3-3-4. イメージ型データ

3-4. 領域とマスク

受講生の申し込みは終了しましたが，下記の URL でご覧になれます。

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/~masumoto/vuniv2000/index.html>

寺島寛之：最適化原理による「地層面に垂直な方向に傾斜が一定」とした場合の曲面推定。

吉田研一：野外地質調査支援システム - MidFielder - の試作。

秋岡陽祐：13°N 付近のマリアナ背弧海域の火山岩急冷ガラスの含水量の測定とその意義。

丹羽春日：大阪府南部地域における堆積物中のヒ素の分布とヒ素汚染地下水の形成機構。

江口麦彦：トカラ列島，悪石島の火山地質と岩石。

大槻芳泰：宇治地域の丹波層群の地質構成と地質構造。

山中雅之：丹波帯ペルム紀層状チャートの放散虫生層序及び放散虫の形態変異。

### [ 修士論文 ]

井上 淳：琵琶湖湖底堆積物の炭化片分析による過去約 13 万年間の植物燃焼史。

(主査 熊井久雄；副主査 八尾 昭，吉川周作)

釜中美歩：炭素・窒素分析を用いた古耕土の認定 - 大阪市  
長原遺跡を例にして。

(主査 熊井久雄； 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

佐藤香織：八ヶ岳西麓おける土地改変による地下水水位と河  
川流量の変化。

(主査 熊井久雄； 副主査 中川康一, 三田村宗樹)

銭 祥富：大阪平野南部に分布する段丘層の層序と編年。

(主査 熊井久雄； 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

吉村有加：縄文時代早・前期人の四肢骨の形態的特徴。

(主査 熊井久雄； 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

川村大作：粘土の電気的特性にみられる堆積環境の影響。

(主査 中川康一； 副主査 熊井久雄, 吉川周作, 三田  
村宗樹)

山口久美子：生層序区分の基礎となる公理系の予察的研究。

(主査 塩野清治； 副主査 八尾 昭, 升本眞二)

田中邦明：海洋底玄武岩の熱水変質作用に伴う化学成分の  
挙動。

(主査 相川信之； 副主査 吉田 勝, 益田晴恵)

林 美明子： Depositional environments of the Late  
Carboniferous Talchir Group, Talchir Gondwana  
basin, Orissa, India: control of glacial recession on  
basin evolution.

(主査 八尾 昭； 副主査 熊井久雄, 前島 渉)

西原ちさと：美濃帯のマンガノジュール中のジュラ紀放  
散化石群集。

(主査 八尾 昭； 副主査 熊井久雄, 前島 渉, 江崎  
洋一)

[ 博士論文 ]

江口誠一：沿岸域における植物珪酸体のタフオノミー - 植  
物珪酸体化石による古植生復元の基礎的研究 - 。

(主査 熊井久雄； 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

井上直人：大阪堆積盆地北部の三次元地下構造モデル - 各  
種地下構造デ - タを統合した重力解析 - 。

(主査 中川康一； 副主査 塩野清治, 三田村宗樹)

Hari Prasad, B. : Petrology and geochemistry of  
amphibolites from the Nellore-Khammam Schist  
Belt, SE India: implications for geologic evolution of  
SE India during Precambrian.

(主査 吉田 勝； 副主査 相川信之, 奥平敬元)

Rajneesh Kumar : Structural evolution of the boundary  
zone between the Nellore-Khammam Schist Belt  
and the Pakhal Supergroup at Khammam District,  
SE India.

(主査 吉田 勝； 副主査 八尾 昭, 奥平敬元)

山本裕雄：中国地方中部における海成第三系の層序対比と  
中新世古地理。

(主査 熊井久雄； 副主査 八尾 昭, 吉川周作)

香村一夫：都市域に分布する人工地盤に関する環境地質学  
的研究。

(主査 熊井久雄； 副主査 中川康一, 三田村宗樹)

## 2 - 4 . 1999 年度教員の兼職

篠田圭司	高輝度光科学研究センター外来研究員
吉田 勝	日本学術会議国際協力事業研究連絡委員会委員
	スリランカ国立基礎科学研究所名誉客員教授
八尾 昭	大阪教育大学「自然史特論」

兵庫教育大学「地学特論 B」

神戸大学「古環境学」

香川大学「地球化学」

江崎洋一  
熊井久雄

NEDO 土壌汚染修復技術開発推進委員会委員  
大阪市土壌汚染対策委員会委員

枚方市安全対策委員会委員

和歌山大学システム工学部「地形学」

長野県防災会議専門委員

吉川周作  
三田村宗樹

日本学術会議第四紀研究連絡委員会委員  
大阪女子大学「地球環境科学 ・ 地球環境科  
学実験」

明石市地形・地質調査委員会委員

中川康一

建設省レベル 2 地震動の設定手法に関する技  
術検討会委員

科学技術庁地震調査研究推進本部専門委員

神戸大学理学部「都市構造地質」

根本泰雄

財団法人防災研究協会非常勤研究員

愛知教育大学「固体地球物理学」

升本眞二

大阪女子大学「地球環境科学 I ・ 地球環境科  
学実験」

## 3 . 地球学教室の研究活動

### 3 - 1 . 1999 年研究業績

地球学教室の教職員・大学院生・研究生などによる 1999  
年中に刊行された著書・論文・報告書および学会等の主要  
な講演のリストを分野別にまとめました。

[ 地球物質学 分野 ]

< 論文 >

千葉仁・益田晴恵・李受映・藤岡換太郎・MODE'98 Leg 2  
航海乗船研究者 (0000) 大西洋 TAG 及び Rainbow 海  
底熱水系の熱水の化学組成： MODE'98 Leg 2 の結果。  
JAMSTEC 深海研究, 15, 29-38.

Imae N., Nakamuta Y. and Shinoda, K. (1999) An  
experimental study of hydrous mineral formation by  
reaction between forsterite and water vapor.  
Proceedings of The Japan Academy 75: SerB, 229-  
234.

Ishiyama, D., Shinoda, K., Shimizu, T., Matsubaya, O.  
and Aikawa, N. (1999) Two different types of  
hydrogen having different isotopic ratios in  
hydrothermal quartz. Economic Geology, 94,  
1347-1352.

益田晴恵・伊吹祐一・殿界和夫 (1999) 大阪府北摂地域に  
おける浅層地下水の天然由来ヒ素汚染メカニズム。地下  
水学会誌, 41, 133-146.

Niimi, N., Aikawa, N. and Shinoda, K. (1999) The  
infrared absorption band at 3596 cm<sup>-1</sup> of the  
recrystallized quartz from Mt. Takamiyama,  
Southwest Japan. Mineralogical magazine, 63, 693-  
701.

< 主な学会講演 >

千葉仁・益田晴恵・藤岡換太郎・MODE98Leg2 乗船研究  
者一同 (1999) 大西洋 TAG および Rainbow 海底熱水  
系の熱水の化学組成とプルームと熱水活動の現場観測。  
1999 年地球惑星科学関連学会合同大会(Df-010), 東京。

藤岡換太郎・千葉仁・益田晴恵・MODE98Leg2 乗船研究者一同 (1999) 大西洋の2つの異なった熱水系の成長. 1999年地球惑星科学関連学会合同大会(Df-009), 東京.  
 伊藤浩子・益田晴恵 (1999) 大阪北摂地域における岩石・土壌中のヒ素の化学形態と地下水中への溶出過程. 1999年地球惑星科学関連学会合同大会(Mb-P002), 東京.  
 伊藤浩子・益田晴恵 (1999) 大阪北摂地域におけるヒ素含有地下水の形成機構. 第9回ヒ素シンポジウム, 広島.  
 益田晴恵・蒲生俊敬・KH-98-1-3 乗船研究者一同 (1999) マリアナトラフ最南部の火成活動の地球化学的性質. 1999年地球惑星科学関連学会合同大会(Df-P012), 東京.  
 益田晴恵・伊藤浩子 (1999) 大阪層群堆積物中のヒ素の化学態の深度に伴う変動. 1999年日本地球化学会年会, 筑波.  
 益田晴恵・賈疏源・北田奈緒子・中屋真司・王新南・柳澤文孝・楊慧東 (1999) 中国四川省の農村部における硝

酸汚染地下水の実. 1999年日本地球化学会年会, 筑波.  
 益田晴恵・伊藤浩子 (1999) 大阪層群堆積物中のヒ素の化学態と地下水中への溶出機構. 第9回ヒ素シンポジウム, 広島.  
 篠田圭司・永井隆哉・相川信之 (1999) 近赤外-赤外分光法によるポートルンダイトのOHの非調和性の圧力依存性. 日本鉱物学会年会講演要旨集(水戸), 73.  
 Yanagisawa, F., Masuda, H., Jia, S., Yang, H., Wan, X., Nakaya, S. and Kitada, N. (1999) Chemistry of dry and wet deposition in Emei and Chengdu area, China (preliminary report) (1) dry deposition. Abs. First Asian Aerosol Conference, SP2-2, July 27-29, Nagoya, Japan, 148-149.  
 Yanagisawa, F., Masuda, H., Jia, S., Yang, H., Wan, X., Nakaya, S. and Kitada, N. (1999) Chemistry of dry and wet deposition in Emei and Chengdu area,

## 大阪市立大学国際シンポジウム

### ロディニア, ゴンドワナ超大陸の形成・分裂とアジア大陸の成長

2001年10月26~30日

主催 大阪市立大学

UNESCO - IUGS - IGCP-368/411/440

かつて地球上には, ほとんどすべての大陸が集まっていたとされる巨大大陸が存在しました. ロディニア超大陸(10億年前)とゴンドワナ超大陸(5億年前)がそれです. これら2つの超大陸の形成-分裂事件と, それに引き続くアジア大陸の成長過程は, 地球科学の現在の重要な研究課題となっています. さらに, これらの大規模地殻過程に伴う地球表層環境の巨大変化も注目されています. 本国際シンポジウムは, IGCP-No.368「東ゴンドワナの原生代事件」, No.411「アジア大陸におけるゴンドワナ起源陸片のジオダイナミクス」と No.440「ロディニア超大陸の形成と分裂」が共同で企画しました. 本シンポジウムは, これらの3プロジェクトと大阪市立大学が主催し, 国際ゴンドワナ研究連合, ゴンドワナ層序サブコミッション, アジア太平洋地域層序サブコミッション, その他多くの国際, 国内組織のサポートのもとに行なわれます.

シンポジウムのメインテーマは, アジア大陸の成長, アジア大陸構成陸片の起源, その起源大陸としてのロディニアおよびゴンドワナ超大陸の形成過程と分裂過程です. アジアの中生代, 新生代堆積盆地および関連の地質過程も, アジア大陸成長の最近の地質過程として重要です. 一方, 最近の人類の生産活動は, とくに開発途上国に環境破壊をもたらしつつあります. これは現在のアジア諸国に共通する深刻な問題で, 本シンポジウムでは独立の分科会を構成します. さしあたり提案されているトピックスは以下のとおりです.

- 1) ロディニア, ゴンドワナの集合と分裂
- 2) 変動帯の造構過程とアジア大陸の成長
- 3) 超大陸の造構過程と内陸盆地の形成
- 4) ロディニア・ゴンドワナ・アジアのテクトニクスと火成・変成作用
- 5) ロディニア・ゴンドワナ・アジアのテクトニクスと鉱化作用
- 6) ロディニア・ゴンドワナ・アジアのテクトニクスと地球環境の巨大変動
- 7) アジア, 太平洋地域の第四紀層序学
- 8) アジア, ゴンドワナの環境地質, 自然災害, 都市地質

このほか, シンポジウムの前後に日本列島横断巡検(7日間程度)が少なくとも2班企画されています. シンポジウム期間中にも半日程度の野外巡検が計画されています. また, 市民を対象として, 「地球環境の超長期変動と人類紀」のテーマで, シンポジウムの基調講演者らによる市民公開講座をシンポジウム期間中に開催します.

本シンポジウムの詳細は下記の事務局まで問い合わせいただくか, ホムページを参照ください.

#### <連絡先とホームページ>

〒558-8585  
 大阪市住吉区杉本3丁目3-138  
 大阪市立大学理学部地球学教室 I S R G A 事務局

Tel: 06-6605-3184 Fax: 06-6605-2604  
 E-mail: symposium2001@sci.osaka-cu.ac.jp  
<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/English/symposium.html>

- China (preliminary report) (2) wet deposition. Abs. First Asian Aerosol Conference, SP-2-3, July 27-29, Nagoya, Japan, 150-151.
- Yanagisawa, F., Masuda, H., Jia, S., Yang, H., Wan, X., Nakaya, S. and Kitada, N. (1999) Chemistry of dry deposition collected in China, Korea and Japan. Abstracts of 6th Asian Symposium on Ecotechnology, 192-196.
- [ 地球物質学 分野 ]
- < 著・編書 >
- Rao, A. T., Divakara Rao and Yoshida, M. (eds.) (1999) Eastern Ghats Granulites. IAGR Mem. 5, Field Science Publ., Osaka, 173p.
- Yoshida, M. and Santosh, M. (Ser. Eds.) (1999) Geodynamics of the NW Himalaya. Gondwana Research Group Mem. 6, Field Science Publ., Osaka, 377p.
- Yoshida, M., Muhongo, S., Rambeloson, R. and Janardhan, A. S. (1999) Madagascar within Gondwanaland. Gondwana Research (Special Issue) Vol. 2 No. 3, 169p.
- < 論文 >
- Baba, S. (1999) Evolution of the Lewisian Complex in South Harris, northwest Scotland, and its relation to the North Atlantic Craton in the Palaeoproterozoic (2.0 Ga). Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 115-126.
- Hari Prasad, Okudaira, T., Divi, R. S. and Yoshida, M. (1999) Structural features of the Archaean Nellore-Kammam Schist Belt, southeastern India. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 227-236.
- Morris, P. A., Miyake, Y., Furuyama, K., and Puelles, P. (1999) Chronology and petrology of the Daikonjima basalt, Nakaumi Lagoon, eastern Shimane Prefecture, Japan. Jour. Min. Pet. Econ. Geol., 94, 442-452.
- Moses, B. V. C., Ram-Mohan, V. and Yoshida, M. (1999) Geochemical characteristics of mafic granulites and associated websterites from the Sittampundi Complex, South India. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 215-226.
- Rajesh, H. M. (1999) Characteristics and origin of aluminous A-type granitoids from southwestern India. Gondwana Research, 2, 604-606.
- Rajneesh-Kumar, Okudaira, T., Divi, R. S. and Yoshida, M. (1999) Structural features around the Archaean-Proterozoic terrain boundary area in Kammam District, South India. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 237-245.
- Rajneesh-Kumar, Rao, A. T., Shirahata, H., Suzuki, T., Shaju, S., Takano, N., Tani, Y. and Satish-Kumar, M. (1999) An overview of petrology of calc-silicate granulites from the Trivandrum Block, Southern India. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 127-160.
- Tagigami, Y., Yoshida, M. and Funaki, M. (1999)  $^{40}\text{Ar}$ - $^{39}\text{Ar}$  ages of dolerite dykes from Sri Lanka. Polar Geosci., 12, 176-182.
- 土屋 篁・吉田 勝 (1999) インド、東ガーツ帯ヴィンヤカバトナム北東のシース褶曲 . 月刊地球 , 21 , No. 12, 840-84.
- Yoshida, M., Rajesh, H. M. and Santosh, M. (1999) Juxtaposition of India and Madagascar: A perspective. Gondwana Research, 2, accepted for publication, May 1999.
- Yoshida, M., Santosh, M. and Dissanayake, C. B. (1999) Proterozoic events in East Gondwana, Progress in 1998. Gondwana Res., 2, 665-667.
- Yoshida, M., Kagami, H., and Unnikrishnan Warriar (1999) Neodymium model ages from Eastern Ghats and Lutzow-Holm Bay: Constraints on isotopic provinces in India-Antarctic sector of East Gondwana. In: Rao, A. T., Divakara Rao and Yoshida M. (eds.), IAGR Mem. 5, Field Science Publ., Osaka, 161-172.
- Yoshida, M., Ando, T., Divi, R. S., Ghatak, G., Hamamoto, T., Hari Prasad, Mathavan, W., Miyashita, Y., Miyazaki, Y., Moses, B. V. C., Okudaira, T., Osanai, Y., Prame, W. K., Rajneesh-Kumar, Rao, A. T., Shirahata, H., Suzuki, T., Shaju, S., Takano, N., Tani, Y., Tsuchiya, T., Wada, H. and Yoshikura, Y. (1999) Field studies of Proterozoic terrains in Peninsular India and Sri Lanka during 1997-1998. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 179-204.
- < 主な学会講演 >
- 馬場壮太郎 (1999) スコットランド北西、サウスハリス地域のルーイシアン岩体の高 Mg 泥質グラニュライト : 高温 ~ 超高温条件下での圧力上昇の証拠 . 1999 年地球惑星科学関連学会合同大会 , 東京 .
- 馬場壮太郎 (1999) 北大西洋地塊における 20 億大陸衝突イベント : スコットランド北西、サウスハリス岩体の例 . 第 19 回南極地学シンポジウム , プログラム・講演要旨 , 94-95.
- Baba S., Grew E. S., Shearer C. K. and Sheraton J. W. (1999) Surinamite, a high-temperature metamorphic beryllosilicate, from Lewisian kyanite + orthopyroxene + quartz + alkali-feldspar gneiss at South Harris, Scotland. Geol. Soc. America Annual Meeting (Denver).
- Das, K., Miura, H., Dasgupta, S. and Yoshida, M. (1999) Stability of osumilite in granulite facies metapelites at high oxygen fugacity. IGCP-368 International, "Orogenesis in the Outback", Alice Springs, July 1999, Geol. Soc. Australia Abstracts 54, 117.
- Hari Prasad, B., Okudaira, T., Hayasaka, Y. and Yoshida, M. (1999) Geochemistry of amphibolites from Nellore-Kammam Schist Belt, Kammam, southeast India. 第 19 回南極地学シンポジウム (14-15 Oct. 1999), プログラム・講演要旨 , 98-99.
- Rajneesh-Kumar, Okudaira, Y. and Yoshida, M. (1999) Strain analysis of conglomerate bed using deformed pebbles at the boundary between the Nellore-Kammam Schist Belt and Pakhal Group, SE India. 第 19 回南極地学シンポジウム (14-15 Oct. 1999), プログラム・講演要旨 , 96-97.
- Satish-Kumar, M., Wada, H., Osanai, Y. and Yoshida,



- M. (1999) Carbon and Oxygen isotope characteristics of marbles from the Lutzow-Holm Bay, East Antarctica: Evidence for regional fluid infiltration. 第 19 回南極地学シンポジウム (14-15 Oct. 1999), プログラム・講演要旨, 98-99.
- Satish-Kumar, M., Wada, H., Santosh, M. and Yoshida, M. (1999) Thermal structure of southern Indian granulite terrain based on carbon isotope thermometry. IGCP-368 International Symposium, "Orogenesis in the Outback", Alice Springs, July 1999, Geol. Soc. Australia Abstracts 54, 101.
- Yoshida, M. and Arima, M. (1999) Eastern Ghats Granulite Belt: A perspective and correlation in East Gondwana., 8th ISAES, July 1999, Abstracts, 329.
- Yoshida, M., Santosh, M. and Dissanayake, C. B. (1999) Five years of IGCP-368: Study of Proterozoic events in East Gondwana. Invited Introductory Talk, IGCP-368/411 international symposium, Yichang, Oct. 1999, Gondwana Research, 2, 638-641.
- Yoshida, M., Santosh, M. and Dissanayake, C. B. (1999) Five years' activity of IGCP-368 "Proterozoic Events in East Gondwana".
- Yoshida, M. Arima, M. and Rao A. T. (1999) Recyclic tectonothermal events in Eastern Ghats: Continuation to SW Australia and Antarctica. IGCP-368 International Symposium, "Orogenesis in the Outback", Alice Spring, July 1999, Geol. Soc. Australia Abstracts 54, 111.
- Yoshida, M. (1999) Recurrent tectonothermal events in a high-grade terrain: A look into geochronology from Sri Lanka and surrounding areas. IGCP-368 International Symposium, "Orogenesis in the Outback", Alice Spring, July 1999, Geol. Soc. Australia Abstracts 54, 110.
- < 雑報 >
- Biju-Sekhar, S., Yoshida, M., Pandit, M.K., and Santosh, M. (1999) Geochemical and geochronological characterization of granitoids of the north Delhi Fold Belt: Implications for the tectonic evolution of East Gondwana. Gondwana News Letter 13 (Gondwana Research 2), 672-673.
- Hari, K. R., Furuyama, K. and Shabeer, K. P. (1999) The Pavagadh hill, a unique outcrop of the Deccan Trap, Gujarat, India. Gondwana Research 2, 676-679.
- Yoshida, M., Muhongo, S., Rambeloson, R. and Janardhan, A. S. (1999) Madagascar within Gondwanaland: Introduction. Gondwana Research 2, 333.
- Yoshida, M., Santosh, M. and Dissanayake, C. B. (1999) IGCP-368: Activities and Future Programs. Gondwana News Letter No. 13 (Gondwana Research 2, No. 4), 667-669.
- 吉田 勝, 白石和行, 小山内康人 (1999) 第 8 回国際南極地学シンポジウム参加報告. 地質学会 NEWS, 2 (10), 6.
- 吉田勝 (1999) 第 2 回南米同位体シンポジウム. 地質学会 NEWS, 2 (11), 15-16.
- [ 地球史学分野 ]
- < 著書 >
- Yao, A., Ezaki, Y., Hao, W. and Wang, X. (eds.)(1999) Biotic and Geological Development of the Paleo-Tethys in China, Peking University Press, 168p.
- < 論文 >
- Ezaki, Y. (1999) The Permian rugosan *Huayunophyllum*: its phylogenetic relationship and implications for extinction patterns of Rugosa. In: Yao, A., Ezaki, Y., Hao, W. and Wang, X. (eds.), Biotic and Geological Development of the Paleo-Tethys in China. Peking University Press, Beijing, 63-71.
- 柏木健司・八尾 昭 (1999) 紀伊半島西部の黒瀬川帯周辺の上部ジュラ系 - 下部白亜系池之上層. 地質学雑誌, 105, 523-534.
- Kuwahara, K. (1999) Phylogenetic lineage of Late Permian *Albaillella* (*Albaillellaria*, Radiolaria). Jour. Geosci, Osaka City Univ., 42, 85-101.
- Kuwahara, K. (1999) Middle - Late Permian radiolarian assemblages from China and Japan. In Yao, A. et al. (eds.): Biotic and Geological development of the Paleo-Tethys in China, Peking University Press, 43-54.
- Maejima, W., Nakajo, T., Das, R., Pandya, K.L. and Hayashi, M. (1999) Turbidite sedimentation in the Late Paleozoic Talchir Gondwana basin, Orissa, India. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 103-114.
- 鈴木洋平・大塚 勉・八尾 昭 (1999) 美濃帯西部の泥岩から産出したトリアス紀新世放散虫化石群集. 地質学雑誌, 105, 456-459.
- Yao, A. and Kuwahara, K. (1999) Middle-Late Permian radiolarians from the Guangyuan-Shangsi area, Sichuan Province, China. Jour. Geosci, Osaka City Univ., 42, 69-83.
- Yao, A. and Kuwahara, K. (1999) Permian and Triassic radiolarian assemblages from the Yangzi Platform. In: Yao, A. et al. (eds.), Biotic and Geological development of the Paleo-Tethys in China, Peking University Press, 1-16.
- Yao, A. and Kuwahara, K. (1999) Paleozoic and Mesozoic radiolarians from the Changning-Menglian Terrane, Western Yunnan, China. In: Yao, A. et al. (eds.), Biotic and Geological development of the Paleo-Tethys in China, Peking University Press, 17-42.
- < 主な学会講演 >
- 足立奈津子・江崎洋一 (1999) デボン系福地層の微生物類. 日本古生物学会第 148 回例会 (三田) 予稿集, 49.
- Adachi, N. and Ezaki, Y. (1999) Calcified Microbes and Corals from the Devonian Fukuji Formation, Hida "Gaien" Terrane, Southwest Japan. Abstract of the 8th International Symposium on Fossil Cnidaria and Porifera, Sendai, 110.
- 江崎洋一 (1999) 古生代六射サンゴ *Numidiaphyllum* の増殖様式 高い形態変異性の要因. 日本古生物学会 1999 年年会 (仙台) 予稿集, 115.
- 江崎洋一・足立奈津子 (1999) デボン系福地層のサンゴ動物群. 日本古生物学会第 148 回例会 (三田) 予稿集, 48.

- Ezaki, Y. (1999) Asexual reproduction and resultant modifications of Numidiaphyllum: causes for high morphological variability. Abstract of the 8th International Symposium on Fossil Cnidaria and Porifera, Sendai, 92.
- 江崎洋一・足立奈津子 (1999) 飛騨外縁帯のデボン系石灰岩にみられるマイクロバイアライト. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 125.
- 林 美明子・前島 渉・中条武司・Rajashree Das・K. L. Pandya (1999) インド東部タルチール・ゴンドワナ堆積盆における後期古生代氷河の消滅と堆積作用. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 133.
- 柏木健司 (1999) 三重県西部の秩父帯からのジュラ紀新世～白亜紀最初期放散虫化石. 日本地質学会関西支部報, No. 125, 16-17.
- 柏木健司 (1999) 秩父帯における付加体形成後の帯状配列の改変 - 紀伊半島東部の例 -. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 90.
- 桑原希世子 (1999) ペルム紀新世放散虫 *Albaillella* の系統. 日本古生物学会1999年年会(仙台)予稿集, p. 62.
- Kuwahara, K. and Yao, A. (1999) Late Permian - Middle Triassic radiolarian assemblages from Japan and China. In Ying Hongfu and Tong Jinnan (eds.) Proceedings of the International Conference on Pangea and the Paleozoic-Mesozoic Transition. China University of Geosciences Press, 120.
- 桑原希世子・八尾 昭 (1999) 放散虫化石群集の出現・絶滅パターンの解析-ペルム紀新世およびジュラ紀古・中世群集を例として-. 日本地質学会関西支部報, No. 125, 18-19.
- 桑原希世子・八尾 昭 (1999) ペルム紀新世後期の殻サイズの大きな放散虫群集. 日本古生物学会第148回例会(三田)予稿集, 21.
- 桑原希世子・八尾 昭 (1999) 示相化石としてのペルム紀 *stauraxon* 放散虫. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 207.
- 前島 渉・木元高子・中条武司 (1999) 沿岸域における砂の集積能とストーム流の発生: 新第三紀北但層群岡累層の例. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 132.
- 中条武司・井上 基・前島 渉 (1999) 浅海域における砂の集積過程とストームによる再動作用: 四国南西部中新統三崎層群の例. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 132.
- 西原ちさと (1999) 美濃帯のマンガノジュール中のジュラ紀中世の放散虫化石群集. 日本古生物学会第148回例会(三田)予稿集, 26.
- 八尾 昭・桑原希世子 (1999) 揚子地塊上のペルム系-三畳系の放散虫化石群集. 日本古生物学会1999年年会(仙台)予稿集, 71.
- 八尾 昭・桑原希世子 (1999) 揚子地塊上のペルム系-三畳系の放散虫化石群集(その2). 日本古生物学会第148回例会(三田)予稿集, 51.
- 八尾 昭・江崎洋一・桑原希世子・Hao Weicheng・Liu Jianbo (1999) 揚子地塊上のペルム系-三畳系境界. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 12.
- 安原有美・江崎洋一 (1999) シルル紀四射サンゴ *Stauria favosa* の増殖様式と成長パターン. 日本古生物学会第148回例会(三田)予稿集, 50.
- Yasuhara, Y. and Ezaki, Y. (1999) Mode of increase and growth patterns of silurian rugosan *Stauria favosa*. Abstract of the 8th International Symposium on Fossil Cnidaria and Porifera, Sendai, 91.
- [ 人類紀自然学分野 ]
- < 論文 >
- 福間 進 (1999) 国道 369 号線と県道 33 号線沿いの最終処分場. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 101-106.
- 福間 進 (1999) 第四紀層上の谷埋め型の廃棄物処分場の環境地質学的評価. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 107-112.
- 本郷美佐緒 (1999) 大阪湾奥部から湾中央部における表層堆積物の花粉分析 (予報). Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 173-178.
- 井上 淳・田中美沙子・吉川周作 (1999) 大阪市長池堆積物の重金属分析と炭化片分析による人間活動の変遷. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 277-282.
- 川村教一 (1999) 1995 年兵庫県南部地震における香川県の震度分布調査. 地学教育, 52, 73-77.
- 川村教一 (1999) 高松平野の完新世化石とその古環境解析 ( ). 香川生物, 26, 31-42.
- 川村教一 (1999) 香川県高松港からみつかった明治および昭和時代の氾濫堆積物. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 197-202.
- 河村善也・藤田正勝 (1999) 愛知県鳳来町と中国山東省山旺産のバク類化石. 鳳来寺山自然科学博物館館報, 28, 19-28.
- 河村善也・藤田正勝 (1999) 洞窟と脊椎動物化石. ケービングジャーナル, 10, 20-24.
- 小西省吾・吉川周作 (1999) トウヨウゾウ・ナウマンゾウの日本列島への移入時期と陸橋形成. 地球科学, 53, 125-134.
- Konishi, S. and Takahashi, K. (1999) Mandibular morphology of stegodons from Japan, *Stegodon aurora* and *Stegodon shinshuensis* (Proboscidea, Mammalia). Earth Science (Chikyu Kagaku), 53, 3-18.
- 熊井久雄・内山美恵子 (1999) 大阪平野の地下水 - 大阪地下水盆広域流動系の概要 -. 環境技術, 28, 488-490.
- Kumai H. and Uchiyama M. (1999) Groundwater Fluctuation Caused by an Earthquake Almost Immediately Below a Developed Area. International Geological Correlation Programme Project No. 396, Continental Shelves in the Quaternary 4<sup>th</sup> Annual Conference, 23.
- 三田村宗樹・吉川周作 (1999) 大阪平野第四系海成粘土層基底深度分布の統計的検討. 応用地質, 40, 149-158.
- 三田村宗樹・吉川周作 (1999) 大阪平野の反射法地震探査断面の反射面と海成粘土基底面との対比. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 185-190.
- Miyahara, B., Masuda, F., Irizuki, T., Fujiwara, O. and Yoshikawa, S. (1999) Holocene sea level curve and

- paleoenvironments reconstructed from a core in Osaka, Japan. Proceedings of an international workshop on sediment transport and storage in coastal sea-ocean system (eds by Saito, Y. et al.), 415-420, Tsukuba, Japan.
- 水野清秀・佃 栄吉・高橋 誠・百原 新・内山 高(1999) 和歌山平野根来地区深層ボーリング調査から明らかになった平野地下の地質. 地質学雑誌, 105, 235-238.
- 里口保文・長橋良隆・黒川勝巳・吉川周作(1999) 本州中央部に分布する鮮新 - 下部更新統の火山灰層序. 地球科学, 53, 275-290.
- 狭山池地質研究会(1999) 狭山池の堆積物. 狭山池論考集, 195-244, 狭山池調査事務所.
- 内山美恵子(1999) 地層構成粒度による電気検層比抵抗値の分布とその統計解析 - 大阪平野第四紀層を例として -. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 179-184.
- 渡辺真人・三宅 誠・野崎誠二・山本裕雄・竹村厚司・西村年晴(1999) 岡山県高山市地域の備北層群, および津山地域勝田層群から産出した中新世珪藻化石. 地質学雑誌, 105, 116-121.
- 山本裕雄(1999) 広島県庄原市, 西城川河床における中新統備北層群の岩相と石灰質ナンノ化石. 地球科学, 53, 202-216.
- Yamamoto, Y. and Sato, T. (1999) Miocene calcareous nannofossils of the Bihoku Group in the Shobara area, Hiroshima Prefecture, Southwest Japan. Jour. Geosci., Osaka City Univ., 42, 55-67.
- 安原盛明・吉川周作・入月俊明(1999) 大阪湾における現世貝形虫群集. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 167-172.
- 横田喜一郎・吉川周作・森川美幸・山本政儀・山崎秀夫・合田四郎・竺 文彦・檜尾亮一(1999) 琵琶湖底泥中の水銀その他の化学成分の蓄積量について. 第6回生物利用新技術シンポジウム論文集, 100-103.
- 吉川周作・三田村宗樹(1999) 大阪平野第四系層序と酸素同位体比層序との対比. 地質学雑誌, 105, 332-340.
- 吉川周作(1999) 火山灰降灰層準について. 第四紀, 31, 43-50.
- 吉川周作(1999) 琵琶湖東岸, 烏丸地区深層ボーリングコアの火山灰層序. 琵琶湖博物館研究報告, 12, 75-87.
- 吉川周作(1999) 高精度年代決定における火山灰の役割 - 大阪平野第四系からの発信 -. 月刊地球, 号外 26, 201-206.
- Xiao Jule, An Zhisheng, Liu Tungsheng, Inouchi, Y., Kumai, H., Yoshikawa, S. and Kondo, Y. (1999) East Asian monsoon variation during the last 130,000 Years: evidence from the Loess Plateau of central China and Lake Biwa of Japan. Quaternary Science Reviews, 18, 147-157.
- < 雑報 >
- 川村教一(1999) 高松市西内地区から産した完新世貝形虫および有孔虫化石とそれらの古環境解析(予報). 香川県高等学校教育研究会理科部会生地部会会報, 35, 52-56.
- 川村教一・塩田浩之(1999) 高松平野地下の完新世貝類化石. 香川県高等学校教育研究会理科部会生地部会会報, 35, 57-80.
- 川村教一(1999) 高松平野における水害の地質学的研究.
- 福武学術文化振興財団平成10年度年報, 39-45.
- 吉川周作(1999) 書評「大地のおいたち - 神戸・大阪・奈良・和歌山の自然と人類 -」. 地学団体研究会編著, 築地書館, 第四紀研究, 38, 350.
- < 主な学会講演 >
- 藤田正勝・河村善也(1999) 広島県帝釈峡遺跡群における後期更新世・完新世の中・大型哺乳類の大きさ変化(予報). 日本第四紀学会, 京都.
- 藤田正勝・河村善也・金昌柱(1999) イノシシ科の分類と岡山県新見市 NT 洞産の中期更新世イノシシ化石. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 000.
- 福間 進(1999) 国道369号線と県道33号線沿いの最終処分場. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 101-106.
- 福間 進(1999) 第四紀層上の谷埋め型の廃棄物処分場の環境地質学的評価. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 107-112.
- Hirano M., Ishii T., Hada S. and Mitamura M. (1999) Evaluation of horizontal acceleration and topographic changes in the Rokko Mountains induced by the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake. Abstracts for the AGU Fall Meeting 1999, F706-F707.
- 本郷美佐緒(1999) 大阪湾奥部から湾中央部における表層堆積物の花粉分析(予報). Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 173-178.
- 井上 淳・田中美沙子・吉川周作(1999) 大阪市長池堆積物の重金属分析と炭化片分析による人間活動の変遷. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 277-282.
- 石井陽子・中条武司・銭 祥富(1999) 大阪平野上町台地南部における上町層の層序と層相. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 162.
- 入月俊明・増田富士雄・宮原伐折羅・吉川周作・藤原 治(1999) 完新世の大阪湾のける貝形虫群集の変動と明石海峡の関係. 日本古生物学会年会講演予稿集, 148.
- 金子雅一・兵頭政幸・内山 高・松下まり子・吉川周作(1999) 狭山池堆積物から復元した過去600年間の日本の地磁気永年変化. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集(CD-ROM)1999, Ec-001.
- 片岡香子・長橋良隆(1999) 遠方テフラから読みとられる噴火様式と再堆積過程 - 鮮新・更新世境界, 恵比寿峠・福田テフラ -. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 97.
- 川村教一(1999) 香川県高松港からみつかった明治および昭和時代の氾濫堆積物. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 197-202.
- 川村教一(1999) 香川県高松港からみつかった明治時代の氾濫堆積物. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 122-123.
- 川村教一(1999) 香川県高松低地および坂出低地の第四紀中期~後期テフラの対比. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 195.
- 輿水達司・内山 高・長島美音・柴田知之・吉沢一家・河西 学・青砥澄夫(1999) 河口湖湖底ボーリングコアの層序および年代. 日本地質学会第106年学術大会(名古屋)講演要旨, 26.

- Kumai H., Sato K. and Otomo Y. (1999) Upheaval velocity of granite during the Pleistocene based on the weathering rate of biotite and terrace level. Book of Abstracts, INQUA XV International Congress, 103.
- Kumai H. and Nojiriko Excavation Research Group (1999) Paleoenvironment surrounding the paleolithic culture in Japan—a case study on Nojiri-ko culture during the Last glacial stage-. Abstracts, International Symposium on Palaeoanthropology, Beijing, China, 55.
- 富永 好明 (1999) 丹後半島の海成段丘の層序と編年. 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 20.
- 富永 好明・吉川周作・山崎博史・鈴木盛久 (1999) 広島県千代田町で見つかった広域火山灰層とその教材化. 日本地質教育学会第 53 回全国大会 (広島), 144.
- 松原尚志・山本裕雄・栗田裕司 (1999) 淡路島の第三系岩屋層の石灰質ナンノ・渦鞭毛藻化石年代 (中～後期始新世). 日本古生物学会第 148 回例会 (三田) 予稿集, 00.
- 三田村宗樹・益田晴恵 (1999) 大阪周辺の地層中のヒ素と地下水への溶出機構. 第 4 回アジア地下水ヒ素汚染フォーラム, 応用地質研究会・アジア砒素ネットワーク・島根県地学会, 68-69.
- 三田村宗樹・竹村恵二 (1999) 大阪～神戸地域の第四紀地盤の形成過程. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 194-197.
- 三田村宗樹・吉川周作 (1999) 大阪平野の反射法地震探査断面の反射面と海成粘土基底面との対比. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 185-190.
- Miyahara, B., Masuda, F., Irizuki, T., Fujiwara, O. and Yoshikawa, S. (1999) Holocene sea level curve and paleoenvironments reconstructed from a core in Osaka, Japan. Proceedings of an international workshop on sediment transport and storage in coastal sea-ocean system (eds by Saito, Y. et al.), 415-420, Tsukuba, Japan.
- 斎藤礼子・北田奈緒子・尾池和夫・岡田篤正・土岐憲三・中川康一・吉川周作・寒川 旭・小畑秀夫・内山一郎 (1999) 上町断層帯南部の活断層調査. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 152-153.
- 銭 祥富 (1999) 大阪平野南部の高位段丘堆積層について. 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 320.
- 内山美恵子 (1999) 地層構成粒度による電気検層比抵抗値の分布とその統計解析 - 大阪平野第四紀層を例として -. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 179-184.
- 安原盛明・吉川周作・入月俊明 (1999) 大阪湾における現世貝形虫群集. Proceedings of the 9th Symposium on Geo-Environments and Geo-Technics, 167-172.
- 安原盛明・吉川周作・入月俊明・七山太 (1999) 難波累層(完新統)の貝形虫化石群集に基づく古環境解析. 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 43.
- 横田喜一郎・吉川周作・森川美幸・山本政儀・山崎秀夫・合田二郎・笠 文彦・檜尾亮一 (1999) 琵琶湖底泥中の水銀その他の化学成分の蓄積量について. 第 6 回生物利用新技術シンポジウム論文集, 100-103.
- 吉川周作 (1999) 大阪平野の 200 万年—地層から自然環境の変化を読む—. 地球科学講演会, 大阪自然史博物館.
- 山本裕雄 (1999) 中新世の庄原盆地西部における溺れ谷環境の成立と後背地古地理との関係. 地学団体研究会第 53 回総会, 学術シンポジウム V 「堆積学情報の総合化による地質構造発達史へのフィードバック北部フォッサマグナから瀬戸内地域の新生界を中心に」長野.
- [ 都市地盤構造学分野 ]
- < 論文 >
- 井上直人・柴山元彦・辻江賢治・領木邦浩・千田智志・岡本健太郎・根本 泰雄・中川康一 (1999) : 1995 年兵庫県南部地震の広域アンケート調査 - 高震度領域におけるアンケート震度と計測震度との関係 -. 地震, 第 2 輯, 51, 4, 395-407.
- 井上直人・中川康一 (1999) 福井地震断層付近の地下構造調査. 地震, 第 2 輯, 52, 1, 161-169.
- Nakagawa, K., Morii, T (1999) Portable measurement system for soil resistivity and application to Quaternary clayey sediment. W. A. Marr and C. E. Fairhurst, Eds., Nondestructive and Automated Testing for Soil and Rock Properties, ASTM STP 1350, American Society for Testing and Materials, 57-68.
- < 雑報 >
- 岡本義雄・数越達也・根本泰雄 (1999) "21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム"へ向けて. 日本地震学会ニュースレター, 11, 2, 31-33.
- 岡本義雄・数越達也・根本泰雄 (1999) : "21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム"メーリングリストへの参加の呼び掛け, 日本地震学会ニュースレター, 11, 3, 24-24.
- < 主な学会講演 >
- 井上直人・中川康一 (1999) 大阪堆積盆地北部の三次元地下構造. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 150-151.
- 井上直人・中川康一 (1999) 重力から見た大阪盆地の三次元地下構造. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sh-008.
- 川村大作, 根本泰雄, 中川康一 (1999) 教員養成系機関での最近 20 年間の領域別地学的研究状況. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sf-P009.
- 間野道子・中川康一 (1999) 地震計測システムの高周波特性試験. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sg-002.
- 中川康一 (1999) 強震動被害警戒地域の抽出法. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sh-017.
- 中川康一 (1999) 重力調査. 反射法地震探査から見た基盤構造. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 198-201.
- Nakagawa, K. (1999) Geological and geotechnical problems related to the earthquake hazard in mega cities. Proceedings, 2nd Asian Symposium on Engineering Geology and Environment, Bangi, Malaysia, 1-76.
- 中川康一・川村大作 (1999) 粘土層の比抵抗特性. 日本応用地質学会平成 11 年度講演論文集, 29-32.
- Nakagawa, K., Morii, T., Tamura, T., (1999) Characteristics of electrical resistivity in Quaternary clay sediments. Abstract Volume, International Symposium on Engineering Geology, Hydrogeology, and Natural Disasters with Emphasis on Asia, Kathmandu, Nepal, Jour. Nepal Geol. Soc., 20 (Sp. Issue), 57-58.

- 根本泰雄, 川村大作, 中川康一 (1999) 教育機関での最近 20 年間にわたる領域別地学的研究状況. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sf-P008.
- Pathak, D., Zyomori, A., Kawai, I., Seo, T., Okamoto, Z., Satoh, K., Kawamura, D., Nemoto, H. and Nakagawa, K. (1999) Exploring subsurface geoelectrical structure in urban area using CSAMT method: a case study along Yamato River, central Osaka, Japan. Proc. 100th SEGJ Conference, Tokyo, Japan, 207-211.
- Pathak, D., Zyomori, A., Kawai, I., Seo, T., Okamoto, Z., Satoh, K., Kawamura, D., Nemoto, H. and Nakagawa, K. (1999) Controlled Source Audiofrequency Magneto-telluric (CSAMT) method applied in urban area of central Osaka, Japan. Jour. Nepal Geol. Soc., vol. 20, 61-62 (Special Issue).
- Pathak, D., Iwasaki, Y. and Nakagawa, K. (1999) Determination of subsurface S-wave velocity structure in Kobe-Osaka area from boring-core database. Jour. Nepal Geol. Soc., vol. 20, 59-60 (Special Issue).
- 岡本順平・川村大作・井上直人・西浦賢・佐藤隆春・志知龍一・赤松純平・根本泰雄・中川康一 (1999) 有馬・高槻構造線周辺(宝塚・箕面地域)地震被害域での重力異常. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sg-P008.
- 大川 恵・戸田 茂・折戸雅幸・石山達也・中坊 真・根本泰雄・伊藤谷生・佐藤比呂志・黒田 徹・井川 猛・琵琶湖西岸活断層反射グル-プ (1999) 琵琶湖北湖西岸和邇川沿いの堅田丘陵における反射法地震探査. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, Sf-P002.
- 佐藤慶治・相川信之・根本泰雄・中川康一 (1999) 断層破砕帯の細粒部組成と鉱物のひずみ特性 - 柳ヶ瀬断層. 五助橋断層. 野島断層. 地球惑星科学関連学会合同大会予稿集, 1999, La-P008.
- 斎藤礼子・北田奈緒子・尾池和夫・岡田篤正・土岐憲三・中川康一・吉川周作・寒川 旭・小畑秀夫・内山一郎 (1999) 上町断層帯南部の活断層調査. 日本第四紀学会講演要旨集, 29, 152-153.

## 夏のオ - プンキャンパス

大阪市立大学では毎年夏休みに高校生や父兄などを対象にオープンキャンパスを実施しています。1999 年度は 8 月 27 日 (金) に行なわれ、多数の参加者がありました。午前は学部・学科の説明会、午後は理学部では各学科ごとに体験入学が実施されました。

午前の部(理学部説明会)では、(1)学部長挨拶及び理学部紹介、(2)入試説明、(3)学生生活、(4)理学部先輩からの一言、にひきつづいて(5)各学科説明会が行なわれました。地球学科のブースにも多くの人々が訪れ、八尾(主任)が説明にあたりました。

午後の部(体験入学)は最新の設備をそなえた基礎教育実験棟で実施され、地球学科は次の 2 つの実習を提供しました。

「活断層を探そう」担当：升本真二・三田村宗樹

「地層をつくる」担当：前島 涉

いずれの実習も、参加した高校生らには好評でした。次に参加者の感想をいくつか紹介します。

「午後からの実験では普通の講義を聞くのかと思っていたので、良いふうに予想がはずれて、またその実験内容が X 線撮影だったり、水を流して地層をつくったりというもので、おもしろく興味をもって取り組みだし、楽しく時間を過ごせたので、大変良かったと思います。何といっても X 線撮影はワクワクドキドキしながらの体験で、おみやげまでもらえて、とても良い 1 日でした。昨年 1 度受験して落ちたとき、興味も薄れて、他の進路を考えたりもしましたが、今日の実験で本年度の入試に向けて少しやる気が出てきたような気がします。」(予備校・女子)

「まず最初にレントゲン写真をとると言われてびっくりしました。しかも自分たちで直接機械を使って現像までやらせて頂いておもしろかったです。大学の説明会なんて話を聞いておしまいかと思っていたけど、実際に手を使って実験とかをしてみると、大学生みたいになったような気分でした。先生もとても優しく教えて頂いて、少人数だったせいもあるけど、すごく楽しくて高校とはまた違うなあと思いました。私はまだ進路を完全に決めていないので、大阪市立大学に来るかわかりませんが、今日聞いた話などを参考にもう一度ちゃんと進路のことを考えたいと思います。もし来春この大学に入っていたら、よろしく願います。」(高 3・女子)

「見たこともないような実験をたくさんさせていただいてとてもよい経験になりました。地層のことも、図や説明でわかりやすく、私でも理解できました。そして X 線を使わせてもらえるなんて思ってもいなかったので、機械をさわるのがとても良かったです。実際にできた写真を見たときは「自分でやったのに写ってる」と感動しました。本当にうれしかったです。自然の中では普通に起きていることが、ひとたび目をつけるとこんなに奥が深いんですね。研究の対象が「地球」であるこの学科には大変魅力を感じます。」(高 2・女子)

「石のレントゲン写真を撮ると聞いて、そんなこと初めてだったのでとても楽しかった。X 線の照射機も使わせてもらったし、写真の現像まで自分達ですというのはおどろかされた。しかし、大学に入ったらそういうことも全て自分でするのだということがよく分かった。写真を撮った後に、水流による砂の変化の様子を見る実験で、地層が形成されていくときの状態を見せてもらったが、水の流れる速さが少し変わるだけでこんなに水底での様子が変化しているとは思ってもみなかったので感動した。それにしても実験用の設備が非常に充実していて素晴らしいと思う。ぜひこの大学に入りたいと思った。」(高 3・男子)

2000 年度のオープンキャンパスは 8 月 2 日 (水) に予定されています。地球学科では午前の学科説明はもちろん、午後の体験入学にも積極的に取り組み、篠田と前島がそれぞれ実習を提供します。

[ 地球環境情報学分野 ]

< 論文 >

- 藤田 崇・Raghavan, V. (1999) 地質情報と GIS - 地すべり解析における GIS の応用例 - . 日本情報地質学会シンポジウム'99 講演論文集, 49-58.
- 升本眞二 (1999) 地質解析のための GIS . 地質と調査, vol. 81, 23-28 .
- 能美洋介・塩野清治・升本眞二・Raghavan, V. (1999) 地形図を基にした DEM の作成法 - 等高線間に分布する標高情報の活用 - . 情報地質, vol. 10, no.4, 235-246 .
- 塩野清治 (1999) 地質学のための離散数学入門 . 情報地質, vol. 10, no. 1, 13-42 .
- 塩野清治 (1999) 地層累重の法則を保存する層序区分の数学的基礎 . 情報地質, vol. 10, no. 4, 213-223 .
- 塩野清治・升本眞二・坂本正徳 (1999) 地質情報処理の基礎技術 - 地質図の考え方 - . 日本情報地質学会シンポジウム'99 講演論文集, 39-48 .
- Raghavan, V., Shibayama, M. and Masumoto, S. (1999) Development of an Internet based Geographic Information Server. Information Processing Society of Japan SIG Notes, 59-66 .
- Raghavan, V., Masumoto, S., Fujita T., Shiono, K. and Noumi, Y. (1999) Development of a Spatial Database System for Landslide Information Management and Analysis. IGCP-425 Report and Sub-Project Proposals, 125-131 .
- < 報告書 >
- 塩野清治・八尾 昭・升本眞二 (1999) 地質学原理の定式化を基礎とした人工知能型地質構造推定システムの開発 . 平成 8 年度 ~ 平成 10 年度文部省科学研究費補助金 (基盤研究 (B) (2)) 研究成果報告書, 220p .
- < 主な学会講演 >
- 升本眞二・Raghavan V.・青山隆行・塩野清治 (1999) 地質図幅をデータとした GIS による 3 次元地質モデル - 新潟県小千谷地域の例 - . 情報地質, vol. 10, no. 2, 96-99 .
- 能美洋介・塩野清治・升本眞二・Raghavan, V. (1999) 等高線間標高情報による DEM の曲面形状 . 情報地質, vol. 10, no. 2, 108-109 .
- 能美洋介・塩野清治・升本眞二・Raghavan, V. (1999) 地形図から DEM を作る一手法 . 日本地質学会第 106 年学術大会講演要旨, 297 .
- Raghavan, V., Masumoto, S. and Shiono, K. (1999) Design and Development of an Prototype Spatial Database System for Geologic Applications. Geoinformatics, vol. 10, no. 2, 110-111 .
- Raghavan, V.・升本眞二・塩野清治・坂本正徳 (1999) 3 次元地質モデリングのための空間情報システムの開発 . 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 300 .
- 坂本正徳・塩野清治・升本眞二・Raghavan, V. (1999) 地質図作成システム CIGMA の教育利用 . 情報地質, vol. 10, no. 2, 112-113 .
- 坂本正徳・塩野清治・升本眞二・Raghavan, V. (1999) 地質図作成システム CIGMA の利用効果 . 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 297 .
- 関 達也・山口一裕・能美洋介・浅田 稔・米澤 剛・高田実弥 (1999) 岡山県吉備高原地域の地球化学 . 日本地質学会第 106 年学術大会 (名古屋) 講演要旨, 270 .

- 塩野清治 (1999) 地層累重の法則に関連する公理系とその拡張(続報) - 層序区分の数学的基礎 - . 情報地質, vol. 10, no. 2, 114-115 .
- 弘原海清・米澤 剛・原口竜一 (1999) 環境大気中の帯電微粒子(エアロゾル)濃度の連続観測(2) - 大気イオンと気象変化の関連性 - . 地球惑星科学関連学会 1999 年合同学会予稿集, Sj-019 .
- 弘原海清・米澤 剛・原口竜一 (1999) 環境大気中の帯電微粒子(エアロゾル)濃度の連続測定 . 情報地質, vol.10, no. 2, 124-125 .
- 米澤 剛・原口竜一・弘原海清 (1999) 環境大気中の帯電微粒子(エアロゾル)濃度の連続観測(1) - 大気イオンと自然異常(地震)との関係 - . 地球惑星科学関連学会 1999 年合同学会予稿集, Sj-018 .

3 - 2 . 1999 年度海外研究

< 教員 >

- 益田晴恵 : < 中国 > 1999 年 9 月 10 日 ~ 9 月 24 日 「四川省峨眉山周辺の大気と地下水の汚染状況」に関する共同研究(成都理工学院との共同研究) .
- < 中国 > 1999 年 10 月 14 日 ~ 10 月 22 日 「地球環境管理と社会経済発展に関する国際会議」に出席・発表 .
- アメリカ 2000 年 1 月 5 日 ~ 1 月 24 日 「マリアナトラフ海域における熱水活動に関する地球物理学および地球化学的研究」(JAMSTEC / 千葉大学との共同研究) .
- 吉田 勝 : < ニュージーランド・オーストラリア > 1999 年 7 月 2 日 ~ 7 月 24 日 「第 8 回南極地学国際シンポジウム及び内陸変動帯シンポジウム参加」 .
- < ブラジル・アルゼンチン > 1999 年 8 月 1 日 ~ 9 月 23 日 「ブラジル及び周辺地域の先カンブリア代地質の研究, 及びゴンドワナ超大陸に関する国際協力研究体制の充実」 .
- < 中国 > 1999 年 10 月 8 日 ~ 10 月 28 日 「国際シンポジウム及びフィールドワークショップ「中国および関連ゴンドワナ陸片のジオダイナミクスと構造発達」の共同主催」 .
- < インド > 1999 年 12 月 23 日 ~ 2000 年 1 月 15 日 「中部インド原生代変動帯の地質野外調査」 .
- 江崎洋一 : < 中国 > 1999 年 11 月 22 日 ~ 12 月 31 日 「生物絶滅事変後の地球環境の回復過程 - 南中国, 揚子地塊の古環境変遷 -」に関する共同研究 .
- 八尾 昭 : < 中国 > 1999 年 12 月 16 日 ~ 12 月 31 日 「生物絶滅事変後の地球環境の回復過程 - 南中国, 揚子地塊の古環境変遷 -」に関する共同研究 .
- 熊井久雄 : < 南アフリカ > 1999 年 7 月 27 日 ~ 8 月 18 日 第 15 回 INQUA 大会および IGCP396 シンポジウム出席・発表 .
- < 中国 > 1999 年 10 月 10 日 ~ 10 月 29 日 学術振興会特定国派遣, INQUA 層序委員会インターコングレス研究計画策定 .
- < 台湾 > 2000 年 3 月 6 日 ~ 3 月 11 日 アジア太平洋層序小委員会研究計画策定および台湾の地質調査 .
- 中川康一 : < ネパール > 1999 年 9 月 22 日 ~ 10 月 6 日 「第 2 回応用地質学と環境アジア会議及びアジアにおける応用地質学, 水理地質学及び自然災害に関する国際会議に出席・発表」 .
- < 台湾 > 2000 年 3 月 10 日 ~ 3 月 12 日 「活断層及び地震被害調査」

<大学院生・研究生>

馬場壮太郎：<英国> 1999年8月~9月 スコットランド北西，ルーシアン岩体の野外地質調査。

Biju Sekker：<インド> 1999年8月5日~9月10日 北インド，ラジャスタン州，アラパリーデー帯の野外地質調査。

<インド> 1999年12月6日~12月30日 北インド，ラジャスタン州，アラパリーデー帯の野外地質調査。

<インド> 2000年1月3日~1月16日 南インド，グラニユライト帯の調査及び試料採取。

桑原希世子：<中国> 1999年12月2日~12月9日「生物絶滅事変後の地球環境の回復過程—南中国，揚子地塊の古環境変遷—」に関する共同研究。

足立奈津子：<中国> 1999年12月8日~12月18日「生物絶滅事変後の地球環境の回復過程—南中国，揚子地塊の古環境変遷—」に関する共同研究。

本郷美佐緒：<台湾> 2000年3月6日~3月29日 台湾中部の地質調査および台湾南部の植生調査。

3-3. 1999年度研究補助金等(代表者)

篠田圭司：学術振興会科学研究費補助金(奨励研究(A))「顕微ラマン分光法を用いた高圧下での鉱物中のプロトンの挙動の研究」

相川信之：学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「岩石中の同種及び異種鉱物粒の三次元構造・組織」

吉田 勝：ユネスコ・IUGS 共催事業 IGCP-368(東ゴンドワナの原生代事件)

学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))「インド中央構造帯のテクトニクス—東ゴンドワナの原生代事件の研究(IGCP-368)」

学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(企画調査))「国際研究集会「ゴンドワナランドの集合・分裂とアジア大陸の成長」の企画調査」

学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(A))「インド亜大陸原生代変動帯の構造・岩石・年代の研(IGCP368の総括)」

馬場壮太郎：平成 11年度深田研究助成「スコットランド北西，サウスハリス地域の含サフィリン片麻岩の産状と形成過程」

八尾 昭：学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「放散虫によるパンサラッサとパレオテチスの比較」

前島 渉：学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「浅海砂州におけるストーム堆積作用とその地層への保存能」

江崎洋一：学術振興会科学研究費補助金(奨励研究(A))「パレオテチス パンサラッサ域での絶滅事変後の回復過程」  
大阪市立大学1999年度アジア・日本研究フェロウシップ「生物絶滅事変後の地球環境の回復過程—南中国，揚子地塊の古環境変遷—」

桑原希世子：学術振興会科学研究費補助金(特別研究員奨励費)「古生代-中生代境界での環境変動：放散虫化石の群集解析と形態計測からのアプローチ」

熊井久雄：学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「湖成層から解読する長周期火山活動とその環境へのインパクト」

三田村宗樹：学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「大阪平野地下の上部更新統の層序学的研究」

根本泰雄：財団法人防災研究協会研究助成

4. 地球学教室関係行事・出版物等

4-1. 1999年度各種行事

<地球学談話会>

昨年度(世話人代表：根本)は，各研究室で担当者を持ち回りにすることを試みました。これにより内容の偏りをなくすことができました。今年度も同様に行なう予定です。興味のある方はどなたでも参加出来ます。また，学外の方々の話題提供を歓迎します。話題提供，あるいは開催案内通知を新たに希望される方は，世話人まで連絡をお願いします。なお，連絡経費節約と迅速化のため，なるべく電子メールを利用したいと思います。ご協力下さい。(升本)

2000年度世話人：篠田(物質I)，奥平(物質II)，江崎(地球史)，三田村(人類紀)，中川(都市地盤)，升本(地球情報，代表)。

第63回：1999年5月28日(金)

Sven-Oliver Franz (GEOMAR, Research Center for Marine Geoscience, Kiel, Germany): Effects of the formation of the Isthmus of Panama on thermohaline circulation and climate.

篠田圭司(大阪市立大学)：高圧下での鉱物中の“水”の状態を測る—高圧下での赤外吸収スペクトル測定—

第64回：1999年6月18日(金)

三田村宗樹(大阪市立大学)：大阪平野第四系の海成粘土層基底深度分布の統計的検討。

兵頭孝幸(神戸大学内海域機能教育研究センター/理学部地球惑星科学科)：人類紀の古地磁気学—アジアにおける最古のホモ・エレクトゥス—

第65回：1999年7月1日(木)

吉田 勝(大阪市立大学)：大阪市立大学国際シンポジウム「ゴンドワナランドの形成・分裂とアジア大陸の成長」。

在田一則(北海道大学大学院理学研究科)：ヒマラヤのスラストテクトニクスと“逆転”変成作用。

第66回：1999年10月29日(金)

塩野清治(大阪市立大学)：地質情報処理の基礎技術—地質図の考え方—

能美洋介(岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科)：地形図をもとにした新しいDEM作成法—等高線間に分布する不等式制約条件の利用—

第67回：1999年11月26日(金)

赤井純治(新潟大学理学部地質科学科)：バングラデシュのヒ素汚染地下水を帯水する堆積物の鉱物学的研究。

益田晴恵(大阪市立大学)：天然の系でのヒ素の循環とヒ素汚染地下水の形成過程。

第68回：1999年12月20日(月)

中川康一(大阪市立大学)：「21世紀の地学教育を考える大阪フォーラム」の開催にあたって。

小林洋二(筑波大学地球科学系)：非火山山脈はなぜ高くなったのだろう。

<地球学教室交流会>

従来のように，地球学野外実習の期間中の夕方を使って交流会が催されました。今年度の地球学野外実習は，1999年9月17日~21日に実施されました。初日~2日にかけて四国まで遠征し，五色台のサヌキトイド溶岩，大歩危の礫質片岩，阿波の中央構造線の露頭を訪れる巡検を行いました。2日目から，淡路島西淡町付近の和泉層群を主な対象とした調査実習が実施されました。交流会は19日の

夜、宿舎の国立淡路青年の家の交流室を利用して行なわれました。参加者は、1 回生 14 名、2 回生 12 名、3 回生(編入生含む)9 名、4 回生・聴講生・院生 17 名、教員 5 名で、皆楽しいひとときを過ごしました。(三田村)

<地球学院学生会主催院生巡検>

毎年 7 月に行なわれているこの巡検は、「火もの、水もの、メタもの」の地質を新旧いろいろ観察していくことを目的として、各分野の案内者を招いて実施しています。1999 年度は参加者 10 名あまりで、他大学からの参加もいただき、いろいろな面での交流も深めました。

日程：1999 年 7 月 12 日(月)～15 日(木)

案内者：井上 淳(大阪市大)、草野高志(神戸大)、中条武司(大阪市立自然史博)、馬場壮太郎(大阪市大)

参加者：大阪市大 7 名、神戸大 1 名、東京大 1 名、島根大 1 名、市大 OB1 名

行程及び内容(カッコ内は案内者)：

12 日(月) 神戸市垂水区にて大阪層群高塚山層の観察(井上)

13 日(火) 島根県大田市にて三瓶火山の観察(草野)

14 日(水) 島根県浜田にて中新統唐鐘累層の観察(中条)

15 日(木) 島根県益田・浜田にてローソン石探し(馬場)

全日程天候も大きく崩れることもなく、滞りなく進行しました。4 日間共に過ごすということも手伝って、先輩後輩、他大学という壁を越え、納得のゆくまで討論や質問ができ、参加者にとって得るものが非常に多くありました。(松崎)

#### 4 - 2 . 出版物

地球学教室では 1954 年以来、英文紀要 *Journal of Geosciences, Osaka City University* を年 1 巻のペースで編集・発行しています。1991 年 (Vo1, 34) からは国外の研究者も含めたレフェリー制を、1997 年には A4 版 2 段組を導入しています。表紙やレイアウトなど、今後より良いものを目指して順次改良を加えていく予定です。皆様のご意見をお待ちしています。Vo1. 43 の目次は以下のとおりです。

Article 1. YAO Akira & KUWAHARA Kiyoko

Permian and Triassic radiolarians from southern Guizhou Province, China. 1-19.

Article 2. HADIWISASTRA Sapri and KUMAI Hisao

Biostratigraphy of calcareous nannofossils in the Paleogene chaotic sediment in the Karangsembung area, Central Java, Indonesia. 21-30.

Article 3. NAKAJO Takeshi, INOUE Motoi and MAEJIMA Wataru

Storm-modified delta system in the Miocene Misaki Group, Shikoku, southwestern Japan. 31-55.

Article 4. FUJITA Masakatsu, KAWAMURA Yoshinari and MURASE Naomitsu

Middle Pleistocene wild boar remains from NT Cave, Niimi, Okayama Prefecture, west Japan. 57-96.

Article 5. INOUE Naoto and NAKAGAWA Koichi

Modeling of underground structure in Osaka sedimentary basin based on geological interpretation of gravity anomalies and seismic profiles. 97-110.

Article 6. UCHIYAMA Mieko

Vertical groundwater interaction between two confined aquifers; a case study on the lakeside well of the Lake Biwa, Central Japan. 111-133

Article 7. HARI, K.R., SANTOSH, M. and FURUYAMA K.

Melt inclusions in pyroxene and plagioclase phenocrysts from Pavagadh igneous suite, Gujarat, India. 135-148.

Article 8. KANO T., BABA S., BIJU, S.S., BISWAL, T.K., CHAUHAN, N.K., ETO T., GYANI, K.C., JENA, S.K., PANDIT, M.K., WADA H. and YOSHIDA M.

Geological Fieldwork in the Aravalli and Delhi belts in Rajasthan, India, 1999. 149-163.

Article 9. DAS, K., TSUCHIYA Takamura, HOE Soeng Gi, YOSHIDA Masaru

Charnockite-enderbite rocks (orthopyroxene granulites) of northern Eastern Ghats Granulite Belt - a reconnaissance petrographic study and modal analysis. 165-176.

Article 10. SARADHI, P, ARIMA M., RAO, A.T. and YOSHIDA M.

Whole rock geochemistry of massive and porphyritic charnockites from the central part of the Eastern Ghats Belt, India. 177-191.

Article 11. OKUDAIRA T., HARI, P.G. and RAJNEESH KUMAR

Proterozoic Evolution of the Nellore-Khammam Schist Belt, in the Khammam district, SE India. 193-202.

Article 12. RAJESH, H.M., SANTOSH, M. and YOSHIDA M.

Petrogenesis of a aluminous A-type granite from Munnar, southwestern India. 203-225.

Article 13. OSANAI Y., ANDO T., MIYASHITA Y., KUSACHI I., YAMASAKI T., DOYAMA D., PRAME, W. K. B. N., JAYATILEKE, S. and MATHAVAN, V.

Geological fieldwork in the southwestern and central parts of the Highland Complex, Sri Lanka, during 1998-1999, with special reference to the highest grade metamorphic rocks. 227-247.

Article 14. DAS, K, BUICK, I., MILLER, J., HAND, M., MAWBY, Y., HENSEN, B. J. and YOSHIDA M.

Geology and tectonic evolution of Strangways and Harts Range Region of eastern Arunta Inlier, central Australia - a post-conference geotraverse of "Orogenesis in the Outback" (Alice Springs, July 1999). 249-260.

#### 4 - 3 . その他

<学外での講演>

吉田 勝 : IGCP368 "Proterozoic Events in East Gondwana". Special Lecture at II South American Symposium on Isotope Geology (Cordoba, Argentine), 1999 年 9 月 15 日 .

吉田 勝 : Global tectonics during the Neo-proterozoic:



## 21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム

わが国における地学教育を取り巻く教育研究環境は今日大きく変遷し、かつてない激動の時期を迎え、少なからぬ縮小や改変を余儀なくされています。しかし、地学教育は防災、環境教育とも関連すると同時に今後の地球科学の方向性とも大きく関わっています。そこで関連する多くの学会や研究団体と協力し、上記のような企画をいたしました。この企画を通じて地学教育の重要性を多くの人々に普及するとともに、21 世紀の地学教育の基本理念を明確にし、あるべき方向性を打ち出したいと考えています。なお、1999 年 1 月 23 日に第 1 回プレフォーラムが、2000 年 3 月 25 日に第 2 回プレフォーラムが開催され、いずれも成功裏に終了しました。

主催	21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム実行委員会		
日時	2000 年 7 月 29 日(土) 10 時~17 時		
場所	A 会場:メルパルクホール(大阪市淀川区宮原 4-2-1)	電話	06-6350-2128
	B 会場:大阪府立東淀川高等学校(大阪市淀川区宮原 4-4-5)	電話	06-6391-2427
参加費	無料		
参加対象	大学・研究所・博物館研究者, 企業研究者, 小・中・高教員, 市民, 高校生, 中学生, 小学生		
大会役員	会長: 竹内 均(東京大学名誉教授, ニュートン編集長) 実行委員長: 中川 康一(大阪市立大学大学院教授) 実行委員: 25 名(後援学会等より派遣されたものなど)		
後援団体	31 地学関連学会, 5 地学教育研究会, 6 教育委員会		
実施内容	1) 市民向け講演会「地球, そして宇宙」10:20~12:00 松本 零士(大阪府立大型児童館ビッグバン館長, 漫画家) ビデオメッセージ 毛利 衛氏(宇宙飛行士) キャスター 福江 純(大阪教育大学助教授)		
	2) 公開シンポジウム 13:30~15:00 学校教育(小中高の教育) 榊原 保志(信州大学 助教授) 専門教育(大学・企業の教育) 尾池 和夫(京都大学大学院 教授) 生涯教育(博物館などによる教育, 普及) 小出 良幸(神奈川県立生命の星・地球博物館主任研究員)		
	3) 総合討論会 15:00~16:30 各分科会で出た意見をまとめ, 提言を採択する。		
	4) 青少年のための地球科学祭典“ジオカーニバル” 10:30~14:30 多くの体験型実験ブースを置き, 興味深い実験を楽しめるコーナー。 天文関係・気象関係・地質関係の実験, 地震体験車など。		
	5) 地学関連パネル展示 10:30~17:00 地球科学各分野や各学校段階で開発された教材や地球科学普及のためのパネル展示を行なう。		
	6) 地学教材コンテスト 10:30~17:00 地学教育のために開発された教材のコンテストを行ない, 優秀作品を表彰する。		
	1), 2), 3), 5), 6): A 会場	4): B 会場	
連絡先	558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部地球学教室 「21 世紀の地学教育を考える大阪フォーラム」実行委員会事務局 Tel: 06-6605-2588, 2592 Fax: 06-6605-2522		

Past and future researches of IGCP-368 and related field. サンパウロ州立カンピナス大学地球学部特別講義, 1999 年 9 月 23 日.

吉田 勝: Outline and Objective of the Japan-India Collaboration on the Central Indian Tectonic Zone. 招待講演 Seminar on Crustal Evolution of the Eastern and Central Indian Craton and Surrounding Mobile Belts, India. インド地質調査所ナグプール支所, 1999 年 12 月 27 日.

< 他大学での学位審査委員 >

前島 渉: インド, ウトゥカル大学博士学位審査委員

< グループや個人による雑誌等の編集・発行 >

Gondwana Research Vol. 2, Nos. 1-4, 707 pages. Yoshida, M. and Santosh, M. (eds.) (1999) (International Association for Gondwana Research).  
Gondwana News Letter No. 12, 49 pages. Hari-Prasad, B. and Biju-Sekhar (eds.) (1999) (International Association for Gondwana Research).

Gondwana News Letter No. 13, 52 pages. Rajneesh-Kumar and Biju Sekhar (eds.) (1999) (International Association for Gondwana Research).

ゴンドワナニュースレター No. 11, 全 23 頁, 馬場壮太郎・吉田勝 (編集)(1999)(ゴンドワナ研究会発行) .

ゴンドワナニュースレター No. 12, 全 26 頁, 奥平敬元・吉田勝 (編集) (1999) (ゴンドワナ研究会発行) .

< 外国人研究者の招聘 >

Prof. S. Sengupta (インド, ジャダブプール大学) 1999. 10. 22-10. 29 (招聘者: 吉田 勝, 科学研究費補助金)

Dr. Abhijit Roy (インド地質調査所) 1999. 10. 29-12. 28 (招聘者: 吉田 勝, 科学研究費補助金)

Mr. Pranesh Sengupta (インド, ジャダブプール大学) 1999. 5. 10- 7. 26 (招聘者: 吉田 勝, 科学研究費補助金)

Prof. Rao, A.T. (インド, アンドラ大学) 1999. 10 (招聘者: 奥平敬元, 大阪市立大学アジア研究フェローシップ)

Dr. Hari, K.R. (インド,) 1999. 10 (招聘者: 古山勝彦, 大阪市立大学アジア研究フェローシップ)

Mr. Pranesh Sengupta (インド, ジャダブプール大学) 2000. 2. 4- 3. 17 - 4. 17 (招聘者: 吉田 勝, 科学研究費補助金)

Professor Somnath Dasgupta (インド, ジャダブプール大学) 1999. 10 (招聘者: 吉田 勝, ゴンドワナ研究会)

Mr. Shabeer (インド, Centre for Earth Science Studies) 2000. 3. 14 - 3. 31 (招聘者: 吉田 勝, ゴンドワナ研究会)

姚 建新博士 (中国, 中国地質科学院地質研究所) 1999. 9. 10 ~ 2000. 7. 9 (招聘者: 八尾 昭, 日本学術振興会外国人招聘研究者 (長期))

Mr. Hadiwisastra Sapi (インドネシア, 科学研究所) 1999. 12 (招聘者: 熊井久雄, 日本学術振興会)

< 国際共同研究等 >

「東ゴンドワナの原生代事件」(Proterozoic Events in East Gondwana), ユネスコ・IUGS 共催事業 IGCP-368 (吉田 勝: 提案者・共同リーダー) 34 カ国 340 人参加, 1995-2000 .

「ゴンドワナとユーラシアの先カンブリア代変動帯の比較研究」日本・ロシア共同研究 (吉田 勝: 提案者・共同リーダー) .

「インド中央構造帯のテクトニクス -東ゴンドワナの原生代事件の研究 (IGCP-368)-」(吉田 勝: リーダー) 文部省科学研究費補助金事業 (基盤研究国際学術研究), 1998-1999 .

< 国際シンポジウム等の主宰, 分科会座長, 招待講演 >

国際シンポジウム・フィールドワークショップ「内陸変動帯」(オーストラリア, アリススプリングス) (吉田 勝: 共同主宰者; 分科会座長), 1999. 7. 12-16.

国際シンポジウム・フィールドワークショップ「中国及び関連ゴンドワナ陸片の造構発展」IGCP-368/411/440 国際シンポジウムとフィールドワークショップ (中国宣昌) (吉田 勝: 共同主宰者; 分科会座長; 招待講演), 1999. 10. 10-20.

< 地球スキーの会 >

2000 年 3 月 9 日 ~ 12 日, 例年のように長野県白馬村の大阪市立大学白馬セミナーハウスを利用して, 有志によるスキーを通じた親睦会が行なわれました。ゲレンデは 3 月はじめ頃からの寒波の影響で十分な雪に恵まれ, 3 月とは思えない雪質でした。参加者は心ゆくまでスキーを楽しみ, 夜の懇親会も盛り上がりました。ただ, カリキュラム上の日程変更や会の実施日程などの影響もあってか参加者はやや少なく, 学部学生・大学院生 4 名, 教員 2 名, 静岡大学から本学 OB を含めて 6 名の合計 12 名でした。(三田村)

## 地球学教室教職員等連絡先

地球学教室への問い合わせや論文別刷りの請求等は、本年度教室主任(熊井久雄)あるいは関係の教員等、下記連絡先へお願いします。

### [ 地球物質進化学講座 ]

相川信之 Tel. 06 (6605) 2587; Fax. 06 (6605) 3174  
E-mail : aikawa@sci.osaka-cu.ac.jp  
益田晴恵 Tel. 06 (6605) 2591; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : harue@sci.osaka-cu.ac.jp  
篠田圭司 Tel. 06 (6605) 3173; Fax. 06 (6605) 3174  
E-mail : shinoda@sci.osaka-cu.ac.jp  
吉田 勝 Tel. 06 (6605) 2595;  
Tel./Fax. 06 (6605) 3182  
E-mail : myoshida@sci.osaka-cu.ac.jp  
古山勝彦 Tel. 06 (6605) 3179; Fax. 06 (6605) 3183  
E-mail : furuyama@sci.osaka-cu.ac.jp  
奥平敬元 Tel. 06 (6605) 3181; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : oku@sci.osaka-cu.ac.jp  
八尾 昭 Tel. 06 (6605) 2604; Fax. 06 (6605) 2604  
E-mail : yao@sci.osaka-cu.ac.jp  
前島 涉 Tel. 06 (6605) 2596; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : maejima@sci.osaka-cu.ac.jp  
江崎洋一 Tel. 06 (6605) 3184; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : ezaki@sci.osaka-cu.ac.jp

### [ 環境地球学講座 ]

熊井久雄 Tel. 06 (6605) 2589; Fax. 06 (6605) 3176  
E-mail : kumai@sci.osaka-cu.ac.jp  
吉川周作 Tel. 06 (6605) 2590; Fax. 06 (6605) 3176  
E-mail : yoshi@sci.osaka-cu.ac.jp  
三田村宗樹 Tel. 06 (6605) 2592; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : mitamura@sci.osaka-cu.ac.jp  
中川康一 Tel. 06 (6605) 2588; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : knaka@sci.osaka-cu.ac.jp  
根本泰雄 Tel. 06 (6605) 3194; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : nemo@sci.osaka-cu.ac.jp  
宇田英雄 Tel. 06 (6605) 3175; Fax. 06 (6605) 2522  
E-mail : uda@sci.osaka-cu.ac.jp  
塩野清治 Tel. 06 (6605) 2594; Fax. 06 (6605) 3071  
E-mail : shiono@sci.osaka-cu.ac.jp  
升本眞二 Tel. 06 (6605) 3178; Fax. 06 (6605) 3071  
E-mail : masumoto@sci.osaka-cu.ac.jp  
Venkatesh Raghavan Tel. 06 (6605) 3381  
Fax. 06 (6690) 2736 ;  
E-mail:raghavan@media.osaka-cu.ac.jp

理学研究科・理学部 事務室 Tel. 06 (6605) 2501(庶務) , 2504(教務); Fax. 06 (6605) 2522

地球学教室ニュースレター No. 8, 2000年6月30日

編集 地球学教室ニュースレター編集委員会

代表編集委員 前島 涉

編集委員 篠田圭司・古山勝彦・吉川周作・中川康一・升本眞二

発行 大阪市立大学大学院理学研究科・理学部

生物地球系専攻地球学教室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

